

☆ 但馬中学校校長会長賞 ☆



あいさつという種

香美町立香住第一中学校 3年 くろだ ゆうり 黒田 悠李

「一中学生のあいさつは爽やかだな。」

中学校に入学した日、校門で生徒会執行部の先輩と先生方に爽やかなあいさつで迎えられました。小学生の時とは違い、学校内でも、すれ違うたびにあいさつをする一中の伝統に驚きました。

私の通っている香住第一中学校では、あいさつに力を入れています。私はもともと消極的な性格です。入学した頃は、あいさつをすることに恥ずかしさがありました。自分からあいさつができず、声も小さかったです。相手に伝わるあいさつではなく、ただ一中生だからしているあいさつでした。

五月になり、部活動に入学し、そこでもあいさつのことをよく言われるようになりました。「競技は『お願いします。』で始まり、『ありがとうございました。』で終わる。競技で一番になれなくても、あいさつでなら一番になれる。」

顧問の先生はいつもこう言われます。そんな部活動の影響もあり、私は少しずつあいさつができるようになりました。そして、部活動の大会では、一人ひとりが意識したことで

「一中学生のあいさつはすばらしい。」

とほめていただきました。

「自分からあいさつをすれば、自分を知ってもらえるきっかけにもなる。」

そう思いました。一中があいさつを伝統にしている理由が分かったような気がしました。

私のように、自分に自信が持てない人もいるでしょう。あいさつが返されなかったら嫌だなと思う人もいるでしょう。私も、もともとはそうでした。しかし、みんながやっているかと思うと、自然とやらない自分が恥ずかしくなります。

「誰かがやってくれる。そう思っていたら、誰もやらない。」

これも、顧問の先生の言葉です。相手からされるのを待つのではなく、自分からできるようになると成長します。

あいさつは、「人を成長させる種」だと思います。私はあいさつをするようになり、心が強くなったような気がします。それは、一中生全員であいさつに力を入れ、いろんな所でまかれた種が心の中で成長し、「自信」という花を咲かせたからだだと思います。

私は今年、生徒会執行部として毎朝あいさつ立ち番をしています。私が少し変わったように、全校生も変わってほしいと、爽やかなあいさつを心がけてきました。「自分だけでなく、相手も笑顔になれる。」そんなあいさつを、一中の伝統にしていきたいと思います。伝統を守るには、何か工夫をしていかなければなりません。今年の生徒会スローガンでもある「先にあいさつ」、他にも、「目を見てあいさつ、止まってあいさつ」を意識していきたいです。相手より先に、相手の目を見て、立ち止まってあいさつをする。日々のあいさつをさらに進化させ、いつでも、どこでも、あいさつの声が響く、活気あふれる学校であってほしいです。

あいさつは人を成長させる種、そしてもう一つ、あいさつは「人と人をつなぐ種」だと思います。私は朝練習があるので早く家を出ます。朝早い時間でも、地域の皆さんと毎日必ず出会います。あいさつをすると、あいさつを返されるだけでなく、「いつてらっしゃい」「朝早いね」など、温かい言葉をもらうことが多いです。下校時も同じです。あいさつをすると「おかえり」と、まるで家族のように声をかけてくださる優しい方がいて、とても嬉しくなります。そして、あいさつをして良かったなと思います。あいさつをすれば、相手の心に種がまかれます。お互いにあいさつをすれば、自分の心にも種がまかれ、成長すると花が咲きます。こうして、人はつながっていくのだと思います。

あいさつで地域全体が家族のようなつながりになれば、誰もが温かい心を持って生活できるようになると思います。一つの種をまいて、一つの花が咲くより、たくさんの種をまいて、たくさんの花が咲くほうが、より感動できるものになります。一人だけで頑張ってもあまり変わらないのです。一人ひとりの意識が大きき力となって変えていくのです。これからも、皆さんと共に、あいさつという種をいろんなところにまいていきたいと思えます。

笑顔の花が満開になることを願って。